

## IV. シンガポール共和国

<要約>

	概要	特徴
1. 市場環境の特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>○社会構造               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総人口：561万人（世界第110位、2017年IMF推計）</li> </ul> </li> <li>○経済環境               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人当たりGDP：61,767ドル（2018年、IMF推計）</li> <li>・ 実質GDP成長率：2.9%（2018年、IMF推計）</li> <li>・ 1ドル=1.34シンガポール・ドル/1シンガポール・ドル=84.49円(2017/12/31)</li> </ul> </li> </ul>	
2. 金融制度概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○銀行等の業態分類（機関数、根拠法、2018年7月2日時点）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国内銀行（4、1970年銀行法）</li> <li>・ 外国銀行                   <ul style="list-style-type: none"> <li>・ フルバンク（29、1970年銀行法）</li> <li>・ ホールセールバンク（94、1970年銀行法）</li> <li>・ オフショアバンク（1、1970年銀行法）</li> </ul> </li> <li>・ マーチャントバンク（29、1970年シンガポール通貨庁法、1970年銀行法）</li> <li>・ ファイナンスカンパニー（3、1967年ファイナンスカンパニー法）</li> </ul> </li> <li>○監督官庁：シンガポール通貨庁（MAS）</li> <li>○預金保険制度：シンガポール預金保険公社（SDIC）が業務を担う。保証限度額は、1金融機関、預金者一人当たり5万シンガポール・ドル。</li> <li>○金融税制：利子所得、キャピタルゲインは非課税。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○1999年以降、外国銀行を積極的に誘致してきた。</li> <li>○外国銀行との競争の結果、国内銀行の合併・統合が進んだ。</li> <li>○預金保険制度は、全てのフルバンクとファイナンスカンパニーが加盟義務を有し、毎年保険料を支払う。</li> <li>○配当所得は、一段階課税方式により、法人が課税所得に関し納税した税金が最終課税となる。</li> </ul>
3. 郵便貯金の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>○郵便貯金制度・経営形態               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ かつては POSB 銀行（シンガポールの郵貯銀行）が存在したが、1998年に DBS 銀行によって買収された。</li> <li>・ 2011年の DBS 銀行とシンガポール・ポストとの提携により、2012年から DBS/POSB ブランドの金融サービスを提供している。</li> </ul> </li> <li>○顧客基盤               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 外国人労働者が多いため、外国人向けの預金サービス等も展開している。</li> </ul> </li> <li>○主な商品</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○DBS 及び POSB ブランドでは、インターネット・バンキングの手数料を優遇するなど、顧客を店頭での取引からオンラインでの取引に誘導している。</li> </ul>

	シンガポール・ポストでは、DBS/POSBの預金口座の他、公共料金の支払い、各社ローンの返済受付、保険やクレジットカードの提供等を行っている。	
4. 金融機関の特徴	<p>○個人金融資産（2017年12月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 総額：11,540億シンガポール・ドル</li> <li>・ 現金・預金：35.9%</li> <li>・ 生命保険積立金：15.4%</li> <li>・ 中央積立基金：31.2%</li> <li>・ 有価証券：16.2%</li> </ul> <p>○貸出残高（2017年12月末）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家計の借入総額：3,235億シンガポール・ドル</li> <li>・ うち住宅ローン：75%</li> </ul>	<p>○金融資産の保有残高は2007-2017年の10年間で1.97倍以上に成長。</p> <p>○住宅ローンのうち、62.5%が金融機関から、12.5%が住宅開発庁からの借入である。</p>
5. 最近の金融動向と今後の展望	<p>○最近の金融動向</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 富裕層向けビジネスが拡大、収益力も向上。</li> <li>・ キャッシュレス決済が進展。かねてから普及していたクレジットカードとデビットカードに加え、デジタルウォレットなどの新たな形態の決済が伸長。当局は、電子決済への規制の在り方を再検討。</li> <li>・ フィンテックを金融業発展のカギと位置づけ、その促進を積極的に推進。インドネシアを引き離し、ASEANで最もフィンテック企業の集積が進展。主要行も取り組みを強化。</li> </ul>	<p>○富裕層向けビジネスではDBSが先行、OCBCが追う。両行ともM&amp;Aを実施。UOBはやや出遅れ。</p> <p>○伝統的銀行サービスであるクレジットカード・デビットカードが先行普及、デジタルウォレット等がこれを追う展開。</p> <p>○3大銀行は、フィンテック企業の育成やその成果の取り込みを強化。新サービス提供にも積極的。</p>